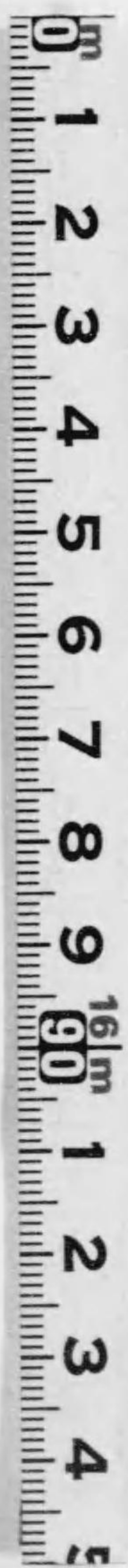


伊香保案内



339

999口



始



339  
999v

伊香保案内

戸丸曉鐘著

伊香保の岨の若松隈りとや君が来まさぬ心もとなくに

(萬葉集)

上野の阿蘇山葛野を廣み延ひにしものを何にが絶へせぬ

(同)

伊香保嶺に雷な鳴りそ我方には故は無くとも兒等に依りてそ

(同)

伊香保風吹く日吹かぬ日ありさいへど我戀やしみ時なかりけり

(同)

伊香保なる物聞山のほとぎすにこらぬことに聞ゆなるかな

(夫木集)

我が戀はあそ山本のあなつら夏野を廣み今盛りなり

(同)

唐衣かくる伊香保の沼水にけふは玉のくあやめをそひく

(定家卿)

上つけの伊香保の沼のかきつばた黒髪山にかゝるうすくも

(人麿)

山見れば一しぐれにも色を添ふいそぐ心をした染にして

(夫木集)

上毛野伊香保の沼に殖ふ水葱斯く戀ひとや種求めけむ

(萬葉集)

大正  
13. 8. 11  
内交

五大  
11.8.31  
交内

自序

本邦 温泉の湧出する所 凡一千三百有餘、敢て諒らざるも、伊香保の如く風光の明媚と温泉の靈効とを併せ備へるの地に至ては、甚だ少し、予、協會の用務を帯びて足跡殆ど全國温泉に及ばざる無しと雖も、特に愛好の切なるものを我が伊香保温泉となす、而て、伊香保を訪ふや前後二百回、其伊香保を知る點に於て多く人後に落ちざるを目負す、曩に小著「伊香保案内」を出して香山の紹介を試みしもの酷愛の發露にして香山の知己たるを信すればなり、前年、香山の地、火を失して、灰燼の災厄に會するや、前著多くの改訂を要して直ちに鉛筆に附するを得ず、偶、書籍の案内を需求する事、屢急なるを以て適かに稿を更へ茲に本書の上梓を見たるも殆ど間に合せなり、故を以て措辭燕雜、而も簡易摘要に努めしを以て或は其要を盡ざる所多かるべきを信ず、雖然、不完全の本書が幸、讀者をして、多少の同伴に資する所あらんか編者の満足に堪へざる所なり、

大正十三年初夏

日本温泉協會の南窓に倚りて

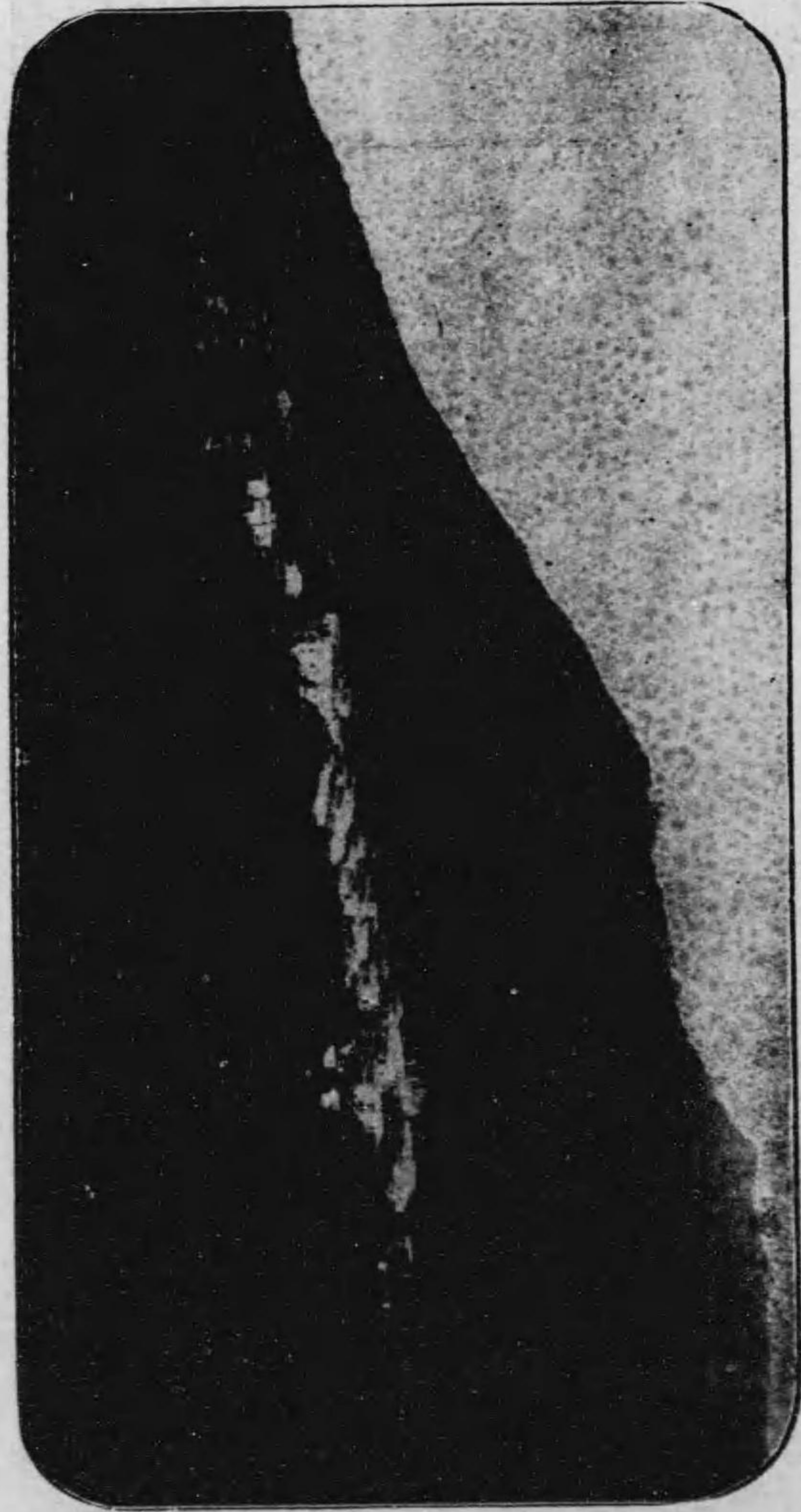
編

者

識

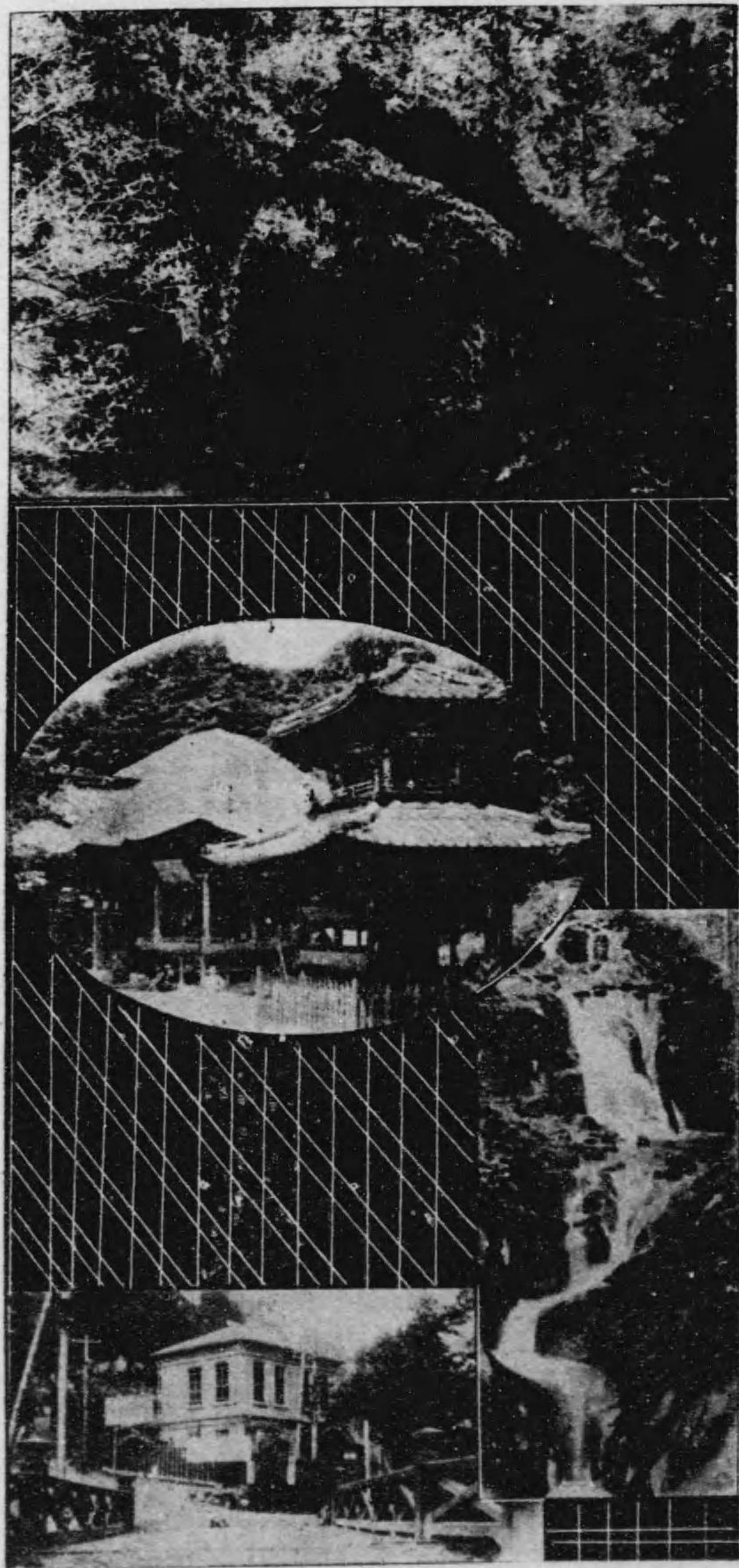
## 伊香保案内目次

仙境伊香保	一
伊香保の地理	二
伊香保への交通	三
伊香保の歴史	四
現在の伊香保	七
伊香保の旅館	一一
伊香保の泉質と効能	一三
婦人と伊香保温泉	一四
伊香保の名所	一五
榛名山と榛名湖	二〇
學者の觀た伊香保	二五
名物と里程其他	三六

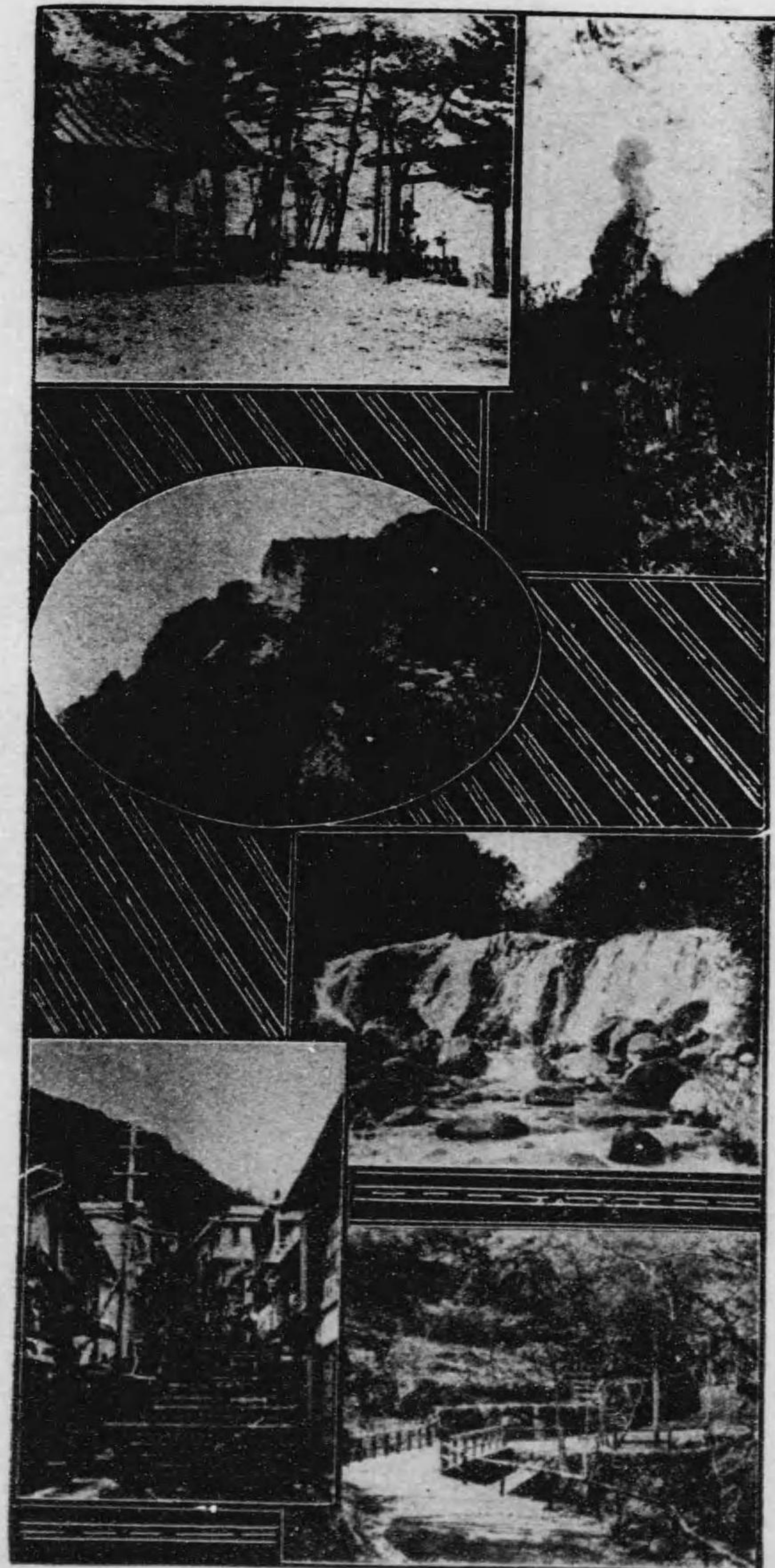


(信寄影相店眞宮藤原保香伊)

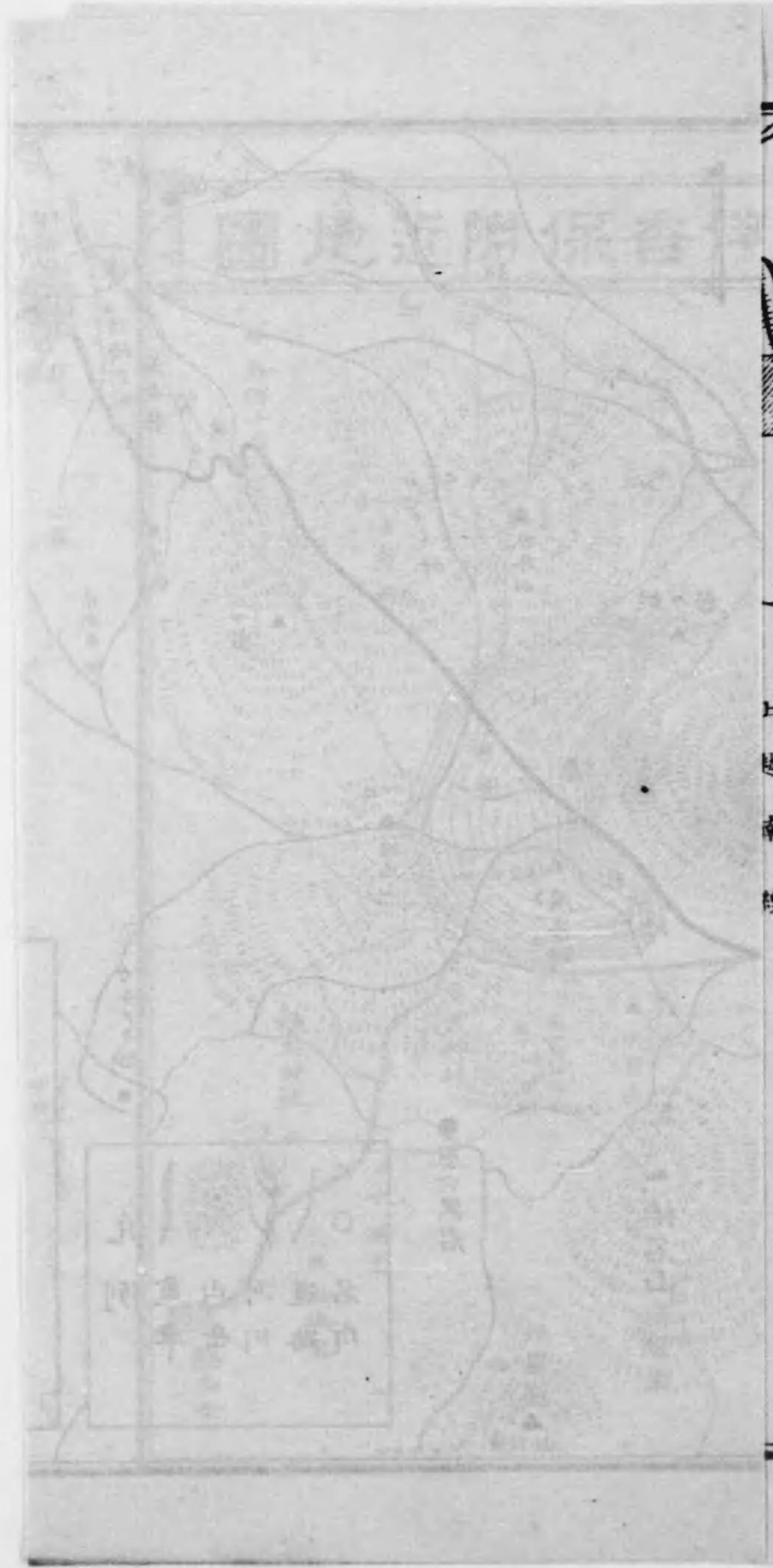
景全地泉温保香伊



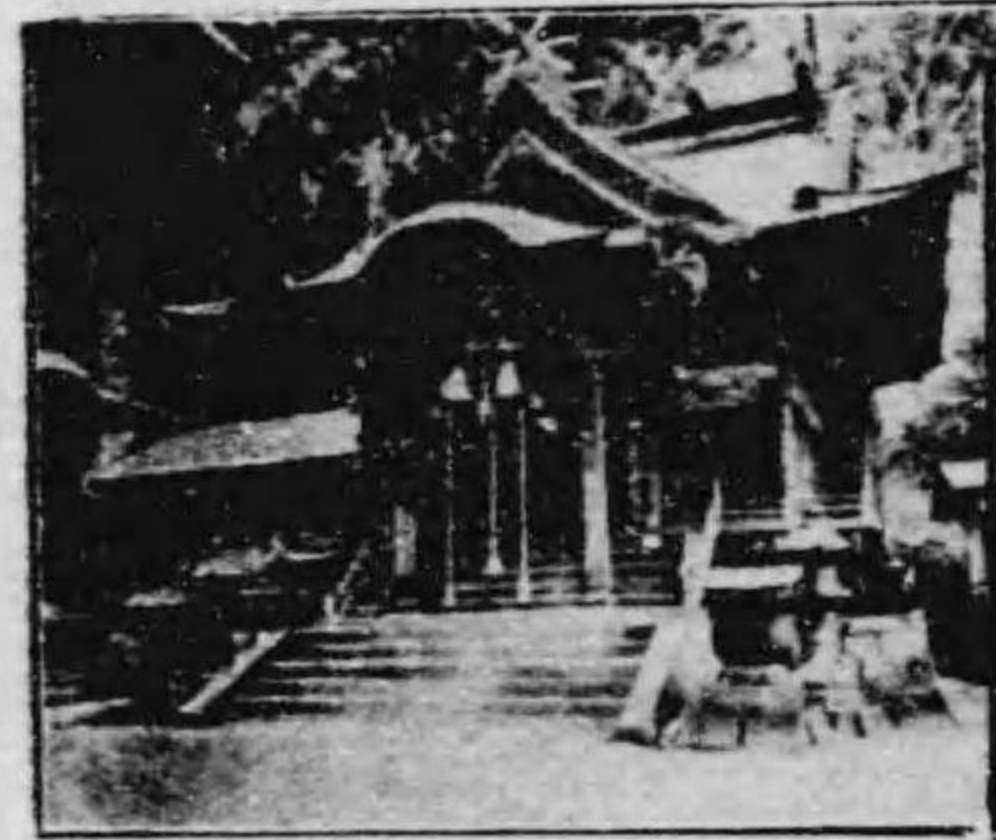
(上) 鞍掛岩 (中) 水澤観世音堂 (下左) 物聞橋附近 (下右) 七重の瀧



(上左) 伊香保神社 (上右) 九十九折岩 (中左) 見晴 (中右) 大瀧 (下左) 伊香保の湯町 (下右) 猿澤橋



上越南線  
至東京四時間



社名神榛



岩鐘



辨天瀑

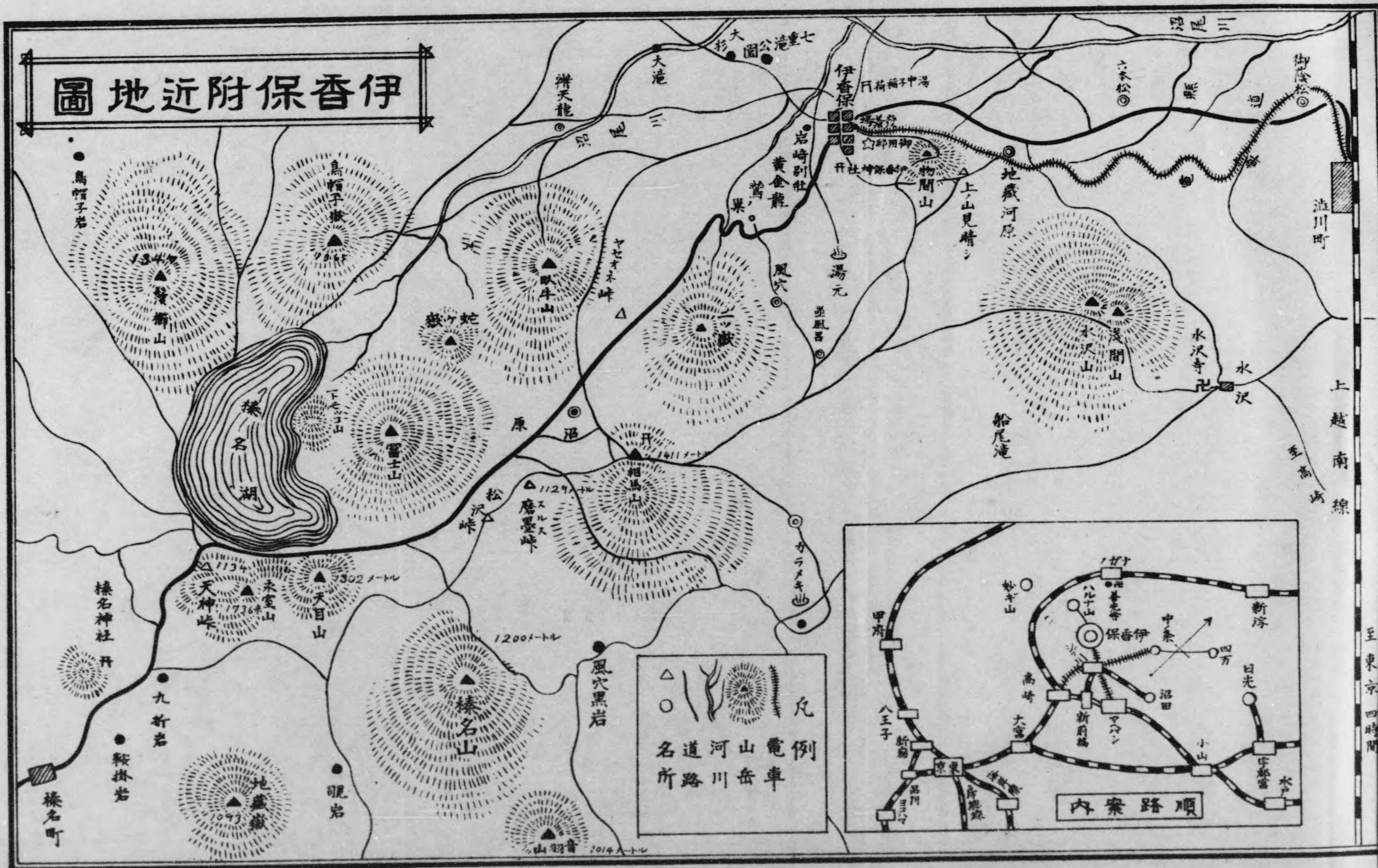


近附元湯



湖名榛と士富名榛

# 伊香保附近地圖



社神名



近

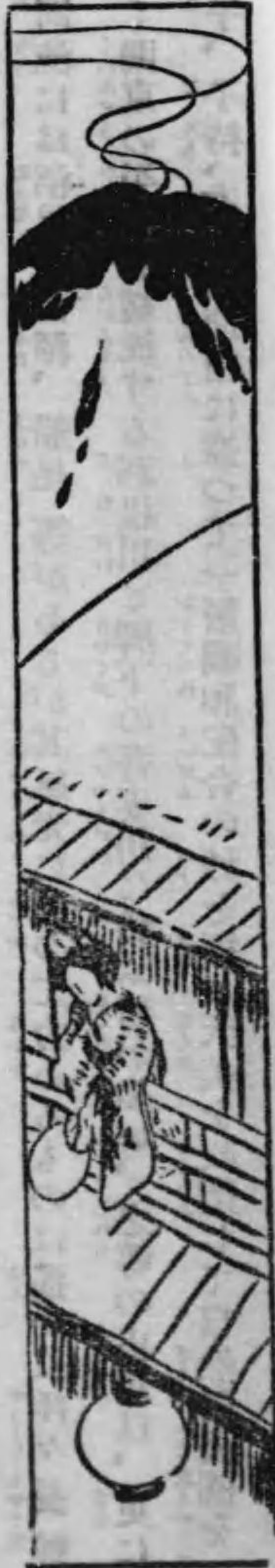


湖名榛

至東京四時間

仙境！伊香保

戸丸 曉 鐘 著



廣々として際涯の無い武蔵野の盡き果てた西空に、峻麗な靈峰を峙て、居る椿名の山懐に抱かれた伊香保は慈母の乳房に絶つた愛兒の如き柔和な懐し味を何人にも覺へしめるであらふ。

嗚呼、我が理想の温泉、伊香保の地は實に此の雅趣あり、風致ある靈山の中腹に位し、永劫に混々と湧出して盡きず、潺々として奔る靈泉の効験を以て、今や天下に謳歌され其名を擅にして居る。

宜なるかな、近年發展の目覺しさ、浴客延人員、優に四十萬を凌駕して、將に五十萬の盛況に達せんとして居る、現今、我國到る處無數に散在する温泉地にして、發展率の伊香





保に匹敵す可き所が他にあらうか。  
 伊香保が、如斯く、今日の隆盛と、發展とを致し天下に冠たるの觀を呈するに至つた所以は、地の利と併せ、温泉として、當然具備せねばならぬ一切の條件を完有し、人為的には文明機關の設備を施した結果に外ならぬ、換言すれば天與と人為と相待つて茲に長足の進歩發展を實現したのである。

### 伊香保の地理

伊香保は、東京を距る事、僅に三十五里、群馬縣群馬郡の北部に僻在して、全町は伊香保、湯中子、水澤の三大字から成立して居る。  
 温泉の湧出する大字伊香保は、相馬ヶ嶽の北腹、海拔二千八百尺の地點に位置して居る。相馬ヶ嶽は當町附近の最高峰で、周圍の各大字の山々は、悉く此の相馬ヶ嶽の分岐である。河流には沼尾、西澤、船尾等があるが其風光に預つて力あるものは遙かに洋々長蛇の如く關東の平野を緩流する利根川と脚下の吾妻川に負ふ所が多い、之等の山川は、更に小野子、子持、赤城の連山に據つて一層調和配合の妙を極め天美を收攬して自然の公園を形

り、轉た仙樂の境を思はしめるのである。

伊香保は高燥であるが爲め空氣は常に清淨で寒暑共に適順である、酷暑の候にも華氏八十五度を超へることは殆ど稀で、嚴冬も亦温泉があるが爲め、寒威が激烈で無い。

獨逸人ベルツ博士の著日本鑛泉論に曰く「伊香保の氣候及土質は實に絶類である、日本全國中恐らくは此地と清勝佳景を競ふ所はあるまい、故に温泉は無いとしても、其眺望の絶妙と、其空氣の爽快とは來遊の客をして常に絶つまい」と眞に好箇の裏書である。

先年、農商務省地質調査局技師の研究發表に依ると、夏期に於ける氣壓は平均、東京より六八、七、ミリ「位低く氣温も亦攝氏五、二度低く、雨量は約一、七倍多いとの事である。

乍併、如何に多量の降雨を見るときも、太古椿名山噴火に依て構成された一帯の火山岩は浸透作用極めて甚しく、加之地形の急斜は排水をして極めて容易ならしめるを以て、地上は一晴忽ち乾燥して、直に草履雪駄も穿ち得られるのである、斯の汚水の溜溜なきことは空氣の清爽と相待つて蟲類蚊蠅の發生を防ぎ蚊帳の必要を目ないから避暑には誠に申分が無いのである。

### 伊香保の交通

東京より伊香保に到るには上野驛を起點として高崎驛まで六十三哩(三時間三十分)澁川驛まで七十八哩(約四時間)澁川より伊香保まで東京電燈株式會社經營の電車に乗り七哩(二時間十分)である、然し高崎に下車し同會社の電車にて澁川を経て二十哩(二時間十五分)……前橋迂回ならば東京より前橋驛まで六十九哩(三時間四十分)前橋より伊香保まで東京電燈會社經營の電車に依つて、十六哩(二時間五十分)であるが其の何れを選ぶも大差は無い、澁川より伊香保迄は八十七ヶ所の屈曲があつて平均二十二分の一の勾配を電車は登つてゆく、途中六ヶ所の避難線がある外、日本では尠ない電磁ブレーキの仕掛があり登山電車として完全無類頗る安全なものだ、東京の上野驛にては、伊香保驛に至る連絡切符を發賣し、手荷物はその儘チツキとし伊香保驛にて受取るの至便がある、尙ほ澁川伊香保間、前橋高崎伊香保間に自動車の便もあるから之を利用して、東北兩毛信越線方面より赴かるゝにも澁川迄汽車便を利用するが便宜である、伊香保電車は列車の發着毎に澁川驛で連絡する。

### 伊香保の歴史

温泉の湧出起源等に就ては、後西院天皇寛文六年より(二百年前)大正九年八月に至る間前後十回の火災に罹り、全町焦土と化して、明記古書類悉く烏有に歸し、之れを詳かにする事が出来ぬ。

乍併、萬葉集、古今集等に伊香保嶺、伊香保沼等の文字散在し、或は文明十八年(四百餘年前)堯惠法印此地に來浴すと北國紀行にもあり、又文龜二年(四百年前)連歌師宗祇宗近も此地に療養すと、宗祇終焉記にあるを以て、此等を考證するも、既に四五百年前には温泉場として、人口に膾炙せることは、一點の疑ひを入る可き餘地がない然し其時代には現今の湯元たる地に、纔かに村民が形ばかりの浴舎を設備して病者の來浴に任せたと過ぎなかつたが天正四年の時、領主武田氏から土地を下賜されて現在の位置に轉じ爾後三百餘年間、時運の推移に連れて今日に至つたのである、伊香保に大屋と云ふものの出來たのは其頃からの事である、大屋は所謂郷士で、關所の守護の任に當つて居た、當時伊香保には三國街道の裏道があつた、今の關屋は其跡である大屋は元十四軒あつたが、後に十二軒になり、これを十二支に擬して呼ぶ様になつたが、今も其名が残つて居る。

徳川時代には、全國の温泉場に湯女と云ふものがあつた、伊香保にも元録寛保頃は此湯

女が盛であつた、其後公許の娼妓となつて、明治十五年頃までは其數五六十人、貨座敷營業を爲す者は十一軒あつたが、十六年に廢娼の令があつて、それから以後全く其跡を斷つて了つた。

尙古書に據つて、其領土管轄を調査すると醍醐天皇延喜年間より、後小松天皇慶永年間に至る凡そ五百有餘年は伊香保神社神領であつたが後花園天皇嘉吉末年より、上杉憲實の領土となり、白井城築かれて長尾清景入城して守護となり、後陽成天皇天正年間に至る長尾七代の管轄であつた、後、白井城陥落して武田の家臣内藤景豊が保土田に居城したので其支配を受け、天正十年織田信長の臣瀧川一益が、厩橋城主となるに及び其管轄する處もなつたが須叟にして本能寺の變となり、一益も亦神奈川で敗北して同年七月より北條氏政の所領となるに及び、長尾景政を白井城に歸城せしめたので、再び長尾氏の領となつた然るに景政箕輪城主となるに及び、伊井直政の領となり、次で正保三年徳川氏の直領となつて以來維新に至るまで代官の管轄するところであつた。

上述の如き歴史的關係を有する伊香保温泉が俄かに其聲價を高めるに至つたのは、實に明治十一年畏くも英照皇太后陛下の行啓を仰せ出されたのに基因する、陛下一度此地に

玉歩をはこばせ給ふや、深くも其風光と氣候とを賞でさせ給ふて、從來年々の行啓は勿論各皇族の御臺臨遊はさること逐年多く明治三十六年には今上陛下の東宮たりし時行啓をさへ、仰ぎ奉つた、此に於て世人に益喧稱され遂に今日の雄飛を見るに至つたのである。

### 現時の伊香保

伊香保は、實に如斯き古き歴史と、尊き光榮とに依つて、發達し來り、遂には町制を布いて保香保町となり、現在では戸數三百五十餘軒、人口二千百餘、温泉業四十餘軒を數へる程に至つた。

湯川(大字伊香保)の面積は東西六町、南北四町、峻崖を削つて石垣を築き、脊後は一軒毎に高く聳えて、後の家は前の家の屋根の上に在るやうに見える、之を離れて見ると、全町悉く一大階梯に似たりで、此景色は此町特有のものである。

何れの旅館も一面は視線を遮らるゝもの無く、窓と云ふ窓、戸々悉く開蕩の眺望を恣にして、遠く望めば赤城、子持の山々、を下瞰する如くである。

「此處は上州伊香保の湯、向は小野子、子持山、子の無いお方はござらんせ」と言ふ俗語

を見ても風光の一面が窺へる事と思ふ。

由來温泉場の多くは、谿間の低地にあつて遠望の景色に乏しいが、此間にあつて我が伊香保のみは、海拔三千尺の高所に在り、所謂山上の温泉として、三面開濶なる眺望を恣にし信、越、岩、野、十州の山川を悉く脚下に集めて居る。

温泉宿は皆三層四層の大夏晶樓で清掃盡さざる無く、善美到らざるは無い、又皆夫々奇麗な内湯を持つて居る、夜になれば、明燈々の電燈がバツと點いて、此深山の奥に不夜城を出現させる、電話の鈴の音はチリンチリンと鳴つて、町の内から外から、遠くは東京横濱とも自由に話が出来る。

設備の完全な例は、屋根の上に避雷針の設けへある、これならばいくら雷様の嫌ひな人じも、線香を立てたり、臍を心配したりする要は無い、待遇の懇切、食物の甘美、これ又他言を要せぬのである。

入費の低廉、これ又驚くべき事實である、普通の旅籠料の安い事は勿論、五日なり一週間なり滞在の客には、自炊の組織を以て、萬事手軽に、經濟に、好むがまゝの賄ひに應ずる、若し極めて簡易な生活を欲する客は如何なる程度までも、簡易な生活が出来る、又

これと同時に、一方に於ては、食料器具の日用品は勿論、あらゆる娯樂品まで完備して居る、若し贅澤なる生活、豊富なる衣食住に飽かんと欲せば、これ又立處にして、千百の要求する處、悉く與へらるゝを見るであらう、中流の紳士に取つても、上流の貴顯に取つても社會の各層を通じて、各様の生活を實現する事の出来る温泉場は、天下廣しと雖とも只此伊香保温泉場ある而已である、伊香保は實に、萬人向の温泉場と云ふべきであらう。

湯町には伊香保鑛泉場組合取締所と云ふのがある、伊香保の改善、發展、向上の策は大ごと無く此所に於て攻究される、風紀取締の勵行さるゝと共に、商賈、旅宿の物價等にも或る一定の規律を設け、衛生の方法に就ても、充分の監督が行届く爲伊香保では未だ曾て一人の傳染病患者を出した事が無い。

又浴醫局と云ふものがあつて浴客の需めに應じて、體質を檢查し、入浴の回数や時間、運動の方法に對する注意を與へ、又滞在中の経過成績等を報告する、體格検査はいつでも望む人の爲めに出来るやうになつて居る。

町内には、此外に警官駐在所、郵便電話電信局、町役場、小學校、少し離れては居るが水力電氣發電所もある、畏れ多くも御用邸もあり、岩崎家、元布哇公使アールエン氏等の

別荘もある、娯樂場としては俱樂部、玉突場、釣堀、大弓場、遊園等があり、其間を縫ふて數十の商家は軒を連ね、伊香保名産の品々を初め、凡ての衣食品、日用品で店頭を花やかに飾つて居る。

大町桂月、大槻文彦兩氏の伊香保紀行に次のようなのがあつた。

大町桂月

伊香保の地は、日本有数の温泉場也、月數四五百、三四町の間層々鱗欠し、伊香保神社に至りて盡く、温泉の源は七八町上の溪間にあり、家々樋を以て之を引き、浴槽に湯瀧をなす、その未出でて水車を轉じ、更に下りて田畝に灌ぐ、地高うして、眺望開け、夏暑きを知らず、蚊張をつらす、(中略)泉質は炭酸泉にして殊に胃腸に効ありとぞ、われ年來、胃を病めり、浮生年月の閑を得ばここに來りて優遊せむ哉、

大槻文彦

伊香保の温泉の源は市街の南の方湯澤の崖に沿ひて、八町程山に入り、湯元といへる溪間にあり、此の溪の奥なる崖のかたこなたより流れ出て湧き出づる處凡八箇所あり土人は其の湧口を釜と呼びて西入、鳥の地獄、吹出し、竹筒、おぼぐる等種々の名あり、其の中に熱きもありぬるきもあり温々滴々として湧き出で漸くに集りゆうゆうに溜り樋に引き廻り溝つ又窠に導くこゝを八町にして市街の頭に來り石坂路の中央に上より下へ湯樋を伏せ處々に堰を作り左右へ枝樋を分ちて家々へ引き内湯をす、固より高きより低きへ湯は遣り可ければ皆湯瀧となりて風呂場へ落つ家々に設けたる風呂場の數は凡五十五箇所にて下流は又集り下りて市街の下にて水車にかゝることすべて六箇所なり皆米を精ぐ、其末流は更に山下の遠近の田畑の川水となる温泉の熱度は四時朝夕にしたがひて其の差ありといへども夏の午時は大低源にして華氏の百二十度風呂場にて百十度乃至百十五度湯元の溪間より凡五七年前二つ岳の蒸湯の廢せる頃に造りし蒸湯の窟の跡あり、熱度の十分ならぬにや程なく用ぬることになりぬ此温泉の殊に奇なり

さすべきは折れる草木の枝の萎れたるをも湯に浸す時はたちまち蘇生し或は鯉、鮒、金魚、の類を湯の中に蓄ふに活潑に泳がて體肥え脂づくこゝ常の水類に勝り又餘れる水を田圃に澆ぎて培養の功あるなどなりこれ大に他の温泉に異なる所なり泉の色は源は透明なれども浴場に入れば少しく白く濁る樋中の堰土のまざるるべし善く味ふればわづかに鹹氣あり香臭はなし(源の湧口のおぼぐるといふものすこゝ鹹氣あり温泉場にいたれば失す)、

### 伊香保の旅館

温泉宿は各階級を網羅すれば、四十戸以上もある、其の三層四層の大夏高樓の軒を並べて櫛比する明觀の美は、流石は天下無比の名に恥しからぬ、營に外觀の美のみならず前に陳べたやうに其内容の充實も亦完備到らざるは無い、更は特記す可きは旅館の待遇である、此の地は温泉組合なる組織があつて、個人的廣告に制限あるが故に、各館の廣告とす可き唯一の武器は、勉強と丁寧といふ宿屋道德の發達である、而して伊香保の温泉宿は重に入湯を目的とする客の多い爲め滞在日數も長きが故に普通旅籠と室貸との二種がある、長期滞在客は多く室貸を望み自炊的に一室若しくは數室(客の數に依り)及び寢具其他必要の物品を借用し毎朝女中をして庖厨の用便を伺はしむるのである、これは各々我が好む所の者を女中に命じて買求めしめ煮焚をなさしむるから恰も我家に起臥すると同様、大に省途を省略する事を得て經濟上大に利得が多く宿屋も都合がいゝ、七八九の三ヶ月に於

ける室料、寢具損料、宿泊料等は概ね左の如くである。

種別	座敷料	自炊道具 其他共	夜具損料	一組	普通旅籠料	晝食料
一等	七圓以下		貳拾五錢以上		三圓以上	宿料ノ約半額
二等	四圓以下		拾五錢以上卅五錢迄		二圓以上	同
三等	二圓以下		八錢以上廿五錢迄		一圓五十錢以上	同

勿論、七、八、九、の三ヶ月を除きたる間は更に最も低廉である、自炊にありては右の外浴銭電燈料等を要するの規定である。

温泉宿の欄干に倚つて立つと前には雲煙の間に漂ふ赤城子持小野子の朝夕變る姿の美しさに、誰れしも其匪淺な眺望、雅致な自然美に、轉た身の仙境にあるを熟々と惚ばれるのである、仰いで後を顧みると翠色滴らんとする榛名連山の姿は、優婉として聳へ如何にも母の乳房に縋る様な景趣には誰しも云ひ知れぬ快感を覚えるのであらう。

此の地の温泉宿業者、家號等は最終の頁に掲げてある。一流、二流、所は何れも數多の内湯湯瀧を有して設備の整然として居るのは言ふまでも無い。

### 伊香保の泉質と効能

伊香保温泉の温度は平均攝氏の五十四度、無色無臭で清く澄み切つて居る(浴槽中の濁つて居るのは他の混合物があるが爲なり)、味は微に舌を刺激して稍爽快の感を與へる内務省東京衛生試験所の分析表によれば次の如くである。

泉質は鹽類性鋼鐵泉に屬す、反應は微弱酸性なれども、煮れば弱アルカリ性に變じ、帶黄白色結晶性の物質となる、比重は攝氏十五度時一〇〇〇八〇なり、定量分析の結果、一千分毎に含む固形物總量〇、九五八六四分なり、其各成分は左の如し。

硫酸カリウム	〇、〇二二〇一	クロールナトリウム	〇、〇四六八〇
硫酸ナトリウム	〇、一〇〇六七	クロールマグネシウム	〇、一〇三五五
硫酸カルシウム	〇、二七六八六	炭酸ナトリウム	〇、〇八七九三
炭酸カルシウム	〇、一〇一六〇	硼酸	痕跡
炭酸マグネシウム	〇、〇〇三〇五	ヨード	痕跡
炭酸鐵	〇、〇一五八一	ブローム	痕跡
炭酸亞酸化マンガン	〇、〇〇三五六	有機物	痕跡
酸化アルミニウム	〇、〇〇三五六	遊離及半結合炭酸	〇、七七九八〇
硅酸	〇、一五九三〇	遊離炭酸の立方センチメートル	三五一、〇
磷酸	痕跡		

それにラヂウム、エマナチオンが含有されて居る事を明治四十三年石谷真鍋兩學士に依り認められ伊香保温泉の特効ある事は愈々確かな事實となつた。

一體此地の温泉は鐵氣が多いから、血液を増加する効がある、貧血症、病後衰弱、婦人血の道、小兒發育等には最上のものである、東京衛生試験所の調査に依る醫治効用は次の通りである。

貧血諸病、萎萎病、腺病(癰癤)慢性癱瘓質私、痛風、脂肪過多症、慢性消化器病、慢性生殖器諸病、慢性子宮實質炎、慢性子宮内膜炎、慢性子宮頸加答兒、慢性子宮周圍炎、月經不調、子宮出血、貧血又は衰弱に原因する陰萎、遺精、精漏、慢性麻痺、神經諸病、歇秋亞病、神經衰弱、憂鬱病、神經痛、慢性呼吸器病、慢性皮膚病、重病後又は身體精神過勞の衰弱、等の諸病には特効あり、但し熱性諸病肝腎及肺の機管的疾患、殊に咯血に伴ふ肺結核高度の、充血症患者は甚だ危険あれば、此湯に浴してはならぬ。

### 婦人ニ伊香保温泉

伊香保温泉は一名『子供の出來るお湯』と呼ばれて居る、永年夫婦間に子供が無く醫者よ

薬よと騒いで居た婦人達が一週間の入湯で不思議と懐妊した實例は澤山ある。

之れは鐵氣の多い泉質だから婦人通有の血の道、貧血症等を根治せしむる爲め浴療後に於て妊娠を見る様になるのである、宜なる哉、伊香保の浴客は大半婦人にして其の過半は子供の無い人らしい、何は兎もあれ子供無き婦人は邦家の爲め靈妙なる温泉の効果を來り試されん事を至囑する。

### 伊香保の名所

温泉場に於ける名所遊覽地は、其の地の死活を左右する力がある、伊香保は此點に於ても亦他温泉地より一籌を贏得して居る。

【縣社伊香保神社】町の南方、最高の地に在つて、大己貴命、少名彥命を祀つた縣社である、祭典は例年十月十九日で、境内の眺望は濶然たるものである。

【上の山】古來月の名所として歌人墨客の口すさびとなつて居る、伊香保神社の後方、樹木鬱蒼と生ひ繁つた所が夫れである。

【物聞山】物聞橋の袂から、千草叢生えたる小徑を辿り、緑の蔭の涼しい木立の下をく

ぐつて、數丁行くと不如歸で名高い物聞山の中腹、小祠の所へと出る、遠近の樵夫歌、さ  
ては砧打つ山里の偲ばれるのである、赤城の山裾は、右手に長く、緑線を引いて、其の盡  
き果てた處に、前橋が雲煙に包まれて見える。

【見晴】物聞山の頂上、東南に削つたやうな絶壁が天空に聳えてゐる、是が見晴といふ  
て其の眺望の美は又雄大である。

【關屋】昔三國裏街道の守護關所の設けあつた所で、今の町役場下である。

【湯元】温泉の湧源地で伊香保神社の南の方から七八町離れた處にある湯元への行く道  
は山に沿ひ谷に望み春五月梅、櫻、梨、杏、躑躅の花一時に開いて、満目すべて紅白の花

ならぬはなく夏は碧藍の若葉の涼風が輕袷を翻へして暑さを忘れしめ秋は満山の紅葉、冬  
は白雪に四季折々の眺を、異にして眞に壯快の心持を與へる。

【猿澤橋】湯元道の小橋で昔は此附近に山猿が群れ遊んで居た所だと云ふ、橋を渡つて  
左の道側に躑躅が丘がある濃淡妍を争ふの美觀は又伊香保を飾る一である。

【湯元橋】湯元と榛名神社及び二つ獄への通路の岐れる所にある、橋の對岸稍、上方に  
當つて一大楓樹は彼の宗祇の手裁へにして四百年の星霜を経秋風一過五彩の綾羅を身に纏

御料理、壽司

仕出し、いたします

伊香保温泉

笑 月

西洋

御料理

出前も迅速に勉強  
致します

カカ入一！



⊠弊亭は榛名湖畔に位し展望廣濶、而も四邊の風光明媚なり

⊠當地は冷風湖心に生じて涼味萬斛、眞に絶好の銷夏境なり

和洋御料理  
避暑御旅館

湖  
畔  
亭

⊠名物の御料理は勿論貸船貸漁具を備へ各位の御來遊を待つ

⊠榛名詣を兼ねて一日の清興を此の地に試みられん事を希ふ

伊香保名物

栗羊羹

温泉豆

製造販賣

洋物雜貨類

賣藥化粧品

伊香保案内

繪葉書各種

三共舎號

山縣清太郎商店

群馬縣伊香保温泉

上毛伊香保温泉場  
 西洋御料理  
 牛鳥肉  
**松本樓**  
 電話 一二番

齒科一般の診療に従ふ

出張日  
 伊香保一六の日  
 沼田町三八の日

上毛澁川町役場前(電話六十六番)  
**大谷齒科醫院**  
 院主 齒科醫 大谷祥太郎  
 同 伊香保温泉出張所

上州伊香保温泉  
 瀧見茶屋  
 七重亭  
 しるこに  
 あべ川  
 いそ巻  
 ひやむぎ

鑛泉煎餅、長生飴、湯晒豆、山千鳥  
 栗羊羹、其他和洋御菓子

製造本舗

鹽

瀨

電話伊香保十九番  
 上州伊香保温泉場

御寫眞、材料一式の御用は

齋藤寫眞店

伊香保神社下

新刊圖書雜誌、繪葉書、印刷物、食料品  
乾物五十集物、罐詰、履物、雜貨一式類

油屋商店

伊香保町

萩原幸七

電車營業區間

高崎——川——伊香保間

前橋——澁川——伊香保間

東京市麴町區有樂町三丁目

東京電燈株式會社

同 前橋支店

同 前橋支店高崎出張所

東京電燈株式會社澁川運輸事務所

電話七十六番

# 伊香保土産は

特製 スウキトピクル 胡瓜化粧水

の二品に限ります。

伊香保御滞在中  
は釣り堀へ。

伊香保電車  
停留場の上 つり堀

翠香園

イカホ。ユモト入口

是非共  
御立寄  
下さい

アケビヤ本店  
同アタミ支店

振替口座東京三〇二九五番

伊豆熱海温泉停車場通り

つて萬葉の繪巻は替へるに物もない。

山見れば一しぐれにも色を滲ふいそご心をした験にして。(夫木集)

【黄金の瀧】 猿澤橋の南寄りの真下にある、瀧の懸れる巖が湯花に染つて金色に輝くので此名がある。

【境澤】 町の東北五六町の所にある境澤稻荷が祭つてあつて眺望の美を集めてゐる。

【中子の稻荷】 街の北方十数町の所にある、沿道の細流は清冷の水が奔つて朱塗の華表は八十餘も縁の中に飾られて居る。

【丸山】 町の北方十町も離れた處に位する、小さい丘の上に稻荷が祭つてあるが別に見る程の所ではない。

【七重の瀧】 町から西の方へ五六町に過ぎない、行く路の風景がよく、名物の「しるこ」を以て知られた旗亭がある。

【七重瀧遊園地】 前年温泉地の有志が相謀つて七重瀧一帯に浴餘の無聊を慰める爲めに一大遊園を作つたのが夫れである。

未だ設備の完全を誇る迄には至ら無いが瀧の下方に二つの遊池を作つて小舟を泛べたり

若くは水泳する事を得せしめ、初夏の躑躅、秋の紅葉等の植栽に努めるは勿論数種の動物迄飼養して縦覧に委してある、池畔の七重亭は池に菝み緑陰に接して風趣掬すべく需によつては自慢の川魚料理も灘の芳淳もあつて散歩序の小憩に適し又一日の消閑に曳杖する人が多い、園の組織は株式會社で冬季は凍水採取する。

【辨天の瀧】 町から三十町餘あるが其の畔の風光は頗る愛す可く一名を御手洗瀧とも云ふ、瀧身三丈二尺、水量多く堂々の響きが凄じい。

【大瀧】 辨天の瀧の下流十餘丁の處にある、別名を珠簾の瀧と云つて河床は一平面に巖盤を露はして頗る奇觀である。

【水澤觀世音】 「たのみくる心も清き水澤の深き願ひをうるぞうれしき」と歌はれた觀世音は坂東三十三番札所の第十六番である、現在の堂宇は今から百三十年前起工して天明七年に竣工されたもので伊香保町から約一里、道路も改繕されて風景も美しいので浴客の参詣が多い。

【水澤寺】 觀音堂山門の下にあつて華美の結構はないが宏壯雄大古雅の風韻に富む古刹であつたが先年炎上して諸種の珍寶が烏有に歸し見るべきものは無い。

【高根】 湯元道から見ると西南の空に樹木の無い一面青毛氈を敷きつめた様な圓狀の高山がある、之れが高根で昔は鹿の棲家であつたと今は其影を見ることも稀である。

さしのぼる高根の月を待あてにまつさやかなるさをしかの聲。(博房)

【二つ嶽】 西を雄嶽他を雌嶽と云ふ雙峯が雲間に併立するので二つ嶽の稱がある、紅葉の名所で殊に山嶺が先づ燃え初めて次第に山裾の葛蘿に及び満山酔へるさまは眞に遊子の腸を断つ思ひがする其廣く連つた裾野は秋草の名所で冬は又雪の名所で名高い、雌岳の麓には硫化水素瓦斯の噴出蒸氣浴があつたが今は噴出せぬ。

旅寝して誰か見るらん玉くしげ二ツが岳の雪のあけほの。(資之)

【我樂目嬉温泉】 相馬ヶ嶽の東南の麓にある鹽類泉で無色透明、温度は華氏七十八度の微温湯である、旅館には阿蘇山館、富士見館等があつて物價低廉、伊香保から一里餘、一日の行樂にいゝ所である、鯉、鰻の名物がある。

【利根川】 温泉場から脚下に見へるのが夫れで澁川の東北を東して關八州を貫流する所謂坂東太郎である、鮎に名高く風光に見る可き所が多い。

【箕輪城跡】 榛名山の南麓、箕輪村にある、弘治永録の頃、武田信玄が五年間も攻撃して陥し得なんだ名城であつた、今猶、残濠、櫓、外廓を残して武士共の夢のあとを偲ぶ事が出来る。

### 榛名山と榛名湖

榛名山は温泉場から實に二里二十五町(神社まで)海拔四千八百尺にして、路は山道だから、僅かに馬か駕輿に依る外は無い。然し道は決してそう険しい事は無く況んや途中の勝を深るには、必ず徒歩に限る、男子は勿論、少しく健脚な婦人ならば、進んで此天下の名勝を蹂躪すべきである、榛名山は専門語で云へば標式的二重式消火山である、外輪山には烏帽子鬘櫓、硯岩、掃部ヶ嶽、氷室山、摺臼岩がある、寄生火山には相馬ヶ嶽、二ツ嶽がある、火口原には榛名牧場、火口原湖には榛名湖、火口瀬には沼尾川がある、中央火口丘は榛名富士で一名小富士、又は伊香保富士と呼ばれて居る、頂上には馬蹄形の火口があつて、東に向つて開き此方面に溶岩が流出して居る、榛名へは別に急がすとも、往復五時間あれば、伊香保から行つて歸られる

眞の半日の逍遙である、譬へ附近の名所は見逃すとも、此山ばかりは、必ず訪れずに歸つてはならぬ。

湯澤の右岸を上つて行く事四五丁湯元道から、右に岐れて橋を渡ると、それから、先が険しい山道となる、凡そ半里にして、二つ嶽、蒸湯の岐れ道に出る、此處から途は益々行きて益々登りとなる、半里近くも行くと漸く登りつめて瘦胸峠(やせむねとうげ)に出る。前には垣々たる伊香保平を隔て、榛名富士を望み、左には、相馬ヶ嶽、右には高嶺を眺め四面皆青々たる山又山である、此峠を降れば即ち伊香保平一名を榛原と云ふ平坦砥の如き高原廣く連りて、四顧の眺望絶佳を絶む、此邊又草花多く百合、杜若の花を始め、其他の珍草異樹が見渡す限り艶麗を誇つて居る。

伊香保平の眞中に開けた一筋の新道を行く事凡そ二十町、左手に摺碓山を見出すであらう、此附近の巖の最も大きなもので、壯觀を極めて居る、攀ちて登れば中央に大きな吼口がある、此處に立つて眼を放てば、南は遠く上武の平野煙霞の如く、北には伊香保沼を手に取る如く眼下に睨瞰する壯觀は譬ふるに物が無い。

此處より左に見へるが、相馬ヶ嶽で榛名連峯中、最も高い所である、頂上を躑躅ヶ峯と

云ひ、平将門の石像を立て、相馬明神と稱して居る、此山は又の名を黒髪山又は阿蘇山と稱し、傾斜急にして峻しく、草木鬱蒼と繁つて、登山には困難である、處々に鐵鎖を繋いで、登山者の便に供して居る、頂上に至れば眺望雄大、遠く駿河の富士を始めとし、数十里の風景は悉く眼下に展開して居る、先年、有栖川宮、北白川宮兩殿下には此山に御成なされた事がある。

【榛名湖】 行く事十数町にして榛名湖畔に至る、湖は又の名を伊香保沼と云ひ伊香保平から十餘町である、東西十一町五間、南北十七町十二間、三方山を還らし、東の汀のみ遠浅で伊香保平に續き其邊に杜若が多くある、夏の夕は此邊に飛びかふ螢幾萬と云ふを知らず、波穏かで水は澄んで奇麗である、冬たちそめば滿眸一白、湖水は一面の鏡と化し皎光翠色 相點綴する所、榛名富士のもとに氷海を渡りスケータチングをするに適して居る、古來榛名の神の御手洗と傳へられて、往古の噴火坑である事は確である、下流は落ちて吾妻川に入る伊香保富士、一谷山、烏帽子嶽、鬘山、硯嶽、掃部嶽等の山々は岸を繞つて其影を水に浮べ風景は明媚秀麗、泛舟、釣魚の慰みに適して居る、湖南にある茶屋は湖畔亭と云ひ、沼の鮮魚の割烹を得意として居る湖畔亭の邊から湖水の兩岸に沿ひ、辨天の瀧を

經て大瀧、七重の瀧を廻つて伊香保に歸る途がある、途は(二十町程)少し遠いが、一帯の風光が極めて良い。

湖畔に伊香保富士、又の名を榛名富士と言ふのがある、東北の岸に聳え、形は殆ど駿河の富士山に似て居る、麓に一谷山と云ふのがある饅頭形をした小山で又其根は一面の牧場に連つて居る。

湖畔から岸を離れて左に行き、小坂を上り盡せば天神峠である、頂上に榛名神社の大華表が建つて居る、其邊に富士見亭、掬水亭の二軒の茶屋がある、眺望の美しい許りでなく名物の新粉を賣る、道はこゝから真下りとなり榛名神社まで十七町一息で行つて了ふ。

【榛名神社】 大町桂月氏の紀行文から……(天神峠より)下ること數町咽ぶが如き溪聲を聞く、天神峠の朱華表を願れば、鼻孔はや天に朝す眼界頓に一谷に限られて十町ばかり趣味なき途を下りしが、左に深き溪を隔て、葛籠岩を望むに至りて、一種の奇景また、露はれ始めたり、數十丈の大巖、下は大にして、上は小に、累々として落ちむとして落ちず其様、鳴の首を延ばせるが如し、その側に具足岩あれどこれは、山壁の骨をあらはせるものにてさまで、奇とするに足らず、路溪と相接するに及びてこゝに始めて榛名神社の裏門

に達す、溪の面にとほり、水其下を流れて聲あり、溪水一落する處、水缺けて清泉湧出す、狹き谷の溪畔巖側また餘地なきまでに祠宇巍然として立てり、神門に入らむとして、先づ驚く筈の如き大巖、眞に門にそひて轟々として天を刺す、之を鉾岩と稱す、門内右に壯務所あり、左の鉾岩に接して雙龍門あり、八つ棟造りの建築精巧を極はめ、刻める龍は躍らむとし、關羽と張飛とは、英姿颯爽として神采變々たり、門を入りてまた驚く祠後鉾岩よりも更に高く大なる奇巖ありて幾んど落ち來らむとす之を御姿岩と稱す、恰も人の懐手して首を前に傾けて立てるが如し、何如にして上りしにやその肩のあたりに幣帛立てり、拜殿其の巖下にあり、本殿の半は巖腹に入る、祠宇可成り高けれど、なほ岩の四分の一にも足らず、岩の高大想ふ可し、拜殿より連りて右手の前に國祖殿あり、更に國祖殿に連りて拜殿と相對して神樂殿あり、三字幾んど回字形をなし、後に峭壁を負ひ前は溪に臨めり、結構壯麗にして彫刻の精緻人目を眩惑せむばかり也、神門を出て、行く事、數十間小支溪に神橋かゝりて、朱欄、碧巖と相映發す、橋畔の巖を覗き岩と稱す、小溪の兩岸大巖相接して長く連り覗けども其盡くる所を見ず橋をすぐれば左に袖すり岩あり、右にも大巖ありて相觸れむとして觸れず、其間わずかに人を通す、巖腹の凹みたる處に、賽神社の

小龍を安置す、巖の中より滴るしづく滴り／＼凍りて大水柱をなし、小龍をかこみて白玲瓏たり、三重塔の側を過ぎ、老杉の間を行きつくせば、左に溪を隔て鞍掛岩を見る、小さく譬ふれば土瓶のつるの如く大きく譬ふれば虹の如き奇岩也、御拔橋を渡れば、随神門あり、やゝ荒れたり、門外まで凡そ十數町せまきたにあひにて一道の清溪、白玉を躍らし、兩方の山多く骨をあらはして、鞍掛岩、鉾岩、御姿岩、葛籠岩を最も奇とし、その他、奇石、怪石、一々數ふるに違あらず、三重の塔並木の老杉と高さを競ひ、神橋の朱欄水に映じ、祠殿宏壯、丹碧燦然として、峭壁の間に光彩を放つ、自然の奇、人工の妙、よく相配合して洵に天下有數の靈境なり。

### 學者の觀た伊香保

#### □氣候療地としての伊香保

醫學博士 富士川 游

【轉地療養】 元來轉地療養といふことは、其人日常の居住地を離れて、身體に受ける外界の感作の佳良な地に轉するのが趣旨で氣候療法を行ふのである、氣候療法といふのは、



氣候の感作を用ひて疾病を療治するので、理學的療法の重要な一部なのである、それで、氣候療法を施すには、氣候學を精く知り、又氣候が健體及病體に及ぼす所の作用を詳かにすることが第一必要で、若し是等の素養がなければ、氣候療法は適切に出来ないのである、然るに、氣候學は今日の處、既に精緻の域にまで進んで居るが氣候が人體に及ぼす所の作用を詳にする學問、所謂氣候生理學はまだ十分でないので従つて氣候療法の作用にも不明の點が尠からぬのである。

總べて一地方の氣候と稱するものは、其他の大氣の状態の中等度に於て特殊と認むべき氣象學的現象を綜合して云ふので、大氣の成分、空氣の温度、濕潤の度、空氣の運動、その電氣性の關係及清潔度等、氣候的原素と名づく可きもの、綜合作用によりて其地方の天氣が出来るのである。

【氣候療法】 氣候療法を説くには、固より此の氣候の要素の事を委しく説くのが必要であるが、此處では氣候學上の研究に依つて、吾人が今日知り得た事項を基礎として之を二三種に區別するので、其一は高地療法である。

【高地療法と伊香保】 全體、高地氣候は海面を抜くに從つて、氣候的原素の變化が益々

著しい、これは獨り海面を抜ける高さのみでなく、其地理學上の位置によりても差がある伊香保は、海拔殆ど三千尺の高地にあるから、先づ氣候療法として最も完全な處である、而し自然的温泉の湧出は兩者相待つて、理想的に近いのである。

氣候療法即ち之れは發揚の作用を呈するもので、呼吸、血液循環、血液生成、新陳代謝及皮膚の機能を増進するのが、其主な作用である。而して肺核結、氣管技加兒、喘息、肺病、貧血、糖尿病、肥胖、胃及腸、神經性衰弱、「ヒポコンドリー」「バセドウ」氏病などには最も適用して効を奏する。

今、學理上から、伊香保を研究觀察して其の氣候療法に良好な點を列舉すれば

- 一、空氣清潔で、塵埃を含まぬこと。
- 二、風を防ぎ得ること、又日光放射の長きこと。
- 三、濕氣量の尠きこと。
- 四、降雪の長く解けぬこと。

□浴客の心得

醫學士 勝又亮 妨

【湯治客の誤解】 温泉の成分を素人は知る必要もない、唯其硫黄泉か鐵泉か乃至は鹽類

泉かの區別を心得ておれば充分である、温泉が病氣に効といふ事は誰も知つて居る事實であるが、多くは長時間入浴する事によつて一層利めがあるといふ、誤解があるため入浴して害を受けることがある、如何に効能の偉大な薬でも若し過度に服用すると有害であると同様に此點は大に注意すべきことである、特に心臓の弱い人、脂肪の少ない人、又は貧血症の人等は餘り屢々入浴することは宜しくない、貧血症の人が温泉に入浴すると衰弱し、脂肪の少ない人は益々脂肪を減退せしめる結果を生ずる。

岡山縣の湯の郷温泉は温度攝氏卅七度八分位で、人の體温より僅かに高い位であるから随つて長時間入浴する様になり人によつては一晚中湯の中に寝る者さへあるが是等は長浴が病に効能ありとの誤解の極端な一例である。

【温泉の飲用】 温泉の應用法は上述の如き浴治法の外、飲用法がある、温泉を内服するのは、炭酸泉、鐵泉、鹽類泉である、之も泉質の分析が確實ならでは其礦泉が如何なる成分か、如何なる病氣には分量を幾何に飲むべきかと分らぬ譯である、尤も從來の經驗上其温泉の効能は略知られて大した過害は見受けぬ様になつて居る、飲用の量の如きも、其温泉中の鹽類の多少により、又其人の體質によるが故に一概に云ふことは出来ないが、炭酸

泉は胃腸の人、鐵泉は貧血症の人、鹽泉は胃弱の人に効能がある、温泉中に「カル、ス」を含有すれば一種の緩和劑となることもある、殊に注意すべきことは心臓弱き人の飲酒後の入浴が極めて危険であることである。

【伊香保温泉の効能】 伊香保温泉は其泉質鹽類性鐵泉であるが故に主として其服用に特效あるものは、胃病貧血病、痔疾、痿黃病、消化不良、子宮病等の人にある。

【湯あたり】 湯中りは温泉が其人に作用する前兆である、即ち温泉の反應である、故に其時期を経過すれば、治療に向ふのである、例はリウマチスの人が温泉に入浴すると一週間か二週間目には少しく悪くなるが、其時期を経過すれば本當に効いて來る即ち湯中りと温泉が人身に働く一種の刺激である、其故に無暗に入浴すれば湯中りを起すのは當然の結果であるが、又適當に入浴しても温泉が人に作用する此反應は起つて來るのである。

【入浴法】 浴醫局に就て診察してからが安全の道である、然し健康體の人は最初一二日間は二三回、以後は五六回位差支へ無い、入浴時間は十分から十五分間これ以上は逆上せて頭痛や眩暈したり、鼻血が出たりする、湯瀧に打たせるは餘りよくない、殊と頭痛症の人は大に慎まねはならぬ。

食事の前後及び運動の後は三十分間位入浴してはならぬ、空腹の時や酒を飲んだ後は、尙更厳禁である。

温泉を飲む事は、甚だ効能がある、胃病、貧血病、痔疾、痿黄病、慢性消化不良、子宮病等の人には特に効がある。大醫ベルツ博士は云つて居る、又普通健康體の人でも、毎日飲用すれば、消化を助け血の循環を良くする、湯元には「飲湯」と揭示してある處がある、朝夕散步を兼ねて行つてあれを酌んで飲むのが一番良い、分量は一日五勺位づゝ毎日二三度用ゐるのが適度である、然し分量を過すと、却つて胃腸を悪くするから、氣を附けねばならぬ、又此温泉服用後、三十分を立たねば食事をしてはならぬ、鐵氣を含んで居るから茶は一切飲まぬ様にしなければならぬ。

湯治の療養は、此外に又種々な攝生が伴はねば甲斐の無いものとなる先づ運動と云ふ事これは極めて大切である、一日湯に入つてはゴロ／＼して居るやうでは、却つて身體の爲にならぬ、食事の前後には、努めて適宜の運動なり散歩なりをしたいものである、伊香保は幸ひにして、邊りに名勝古跡が多い又玉突場の設けもある、珍奇な高山植物や、標本の採集に適する蛾や蝶の類も多い。

それから精神の療養と云ふ事にも、注意せねばならぬ、一切の煩悶、苦惱を忘れ去つて氣を樂に持つ事が大切である、遊戯なり、音樂なり、談笑なり、清新なる娛樂に日を消す事が専一である、只食欲が昂進して來るのが常であるから、兎角間食を欲するに至るものであるが、間食は大いに戒しめねばならぬ、大酒大食は無論嚴禁である、朝は成るべく早く起きよ、夜は成るべく早く寝よ、これが攝生の金科玉條である。

又氣候療養と云ふ事がある、氣候其物で療養するのである、伊香保は土地高燥の爲め、幸ひにして此氣候療養に最上の處である、譬へ温泉に入らずとも、此地の空氣を呼吸した丈けでも、既に此目的は充分に達せられる。

□伊香保の地熱的關係

青山學院教授 井原儀

【榛名湖は火成湖】湖水は種々の原因によつて生ずるものであるが、我國では地熱作用即ち内力によつて出來たものが多い今これを固有性湖と、堰塞湖とに分ける、固有性湖とは流水其他自然の營力によつて、地表に出來た凹所に水の溜溜したもので、更に火山作用

で出来たものと、地質の構造上出来たものとがある、火口湖と火口原湖とは前者に属するのである、即ち火山が活動する時には、其噴出口は地溝によつて地中の深所まで通ずるけれども、活動が漸次衰へる時には通例其噴出口は火口壁の宙壤物等のために大部分が閉塞せられる、既に閉塞せられた噴出口は、摺鉢形の凹所となる、其凹所に水の溜つた湖水が火口湖で復成火山の外輪山の中央火口丘との間にある環状或は馬蹄形の低地即ち火口原に水が溜つて湖水となつた時には、之を火口原湖と名づける、伊香保沼は即ちこれである。

【榛名山は死火山】 死火山は又消火山とも云ひ、歴史以前の時代に於て破裂したことがあるも、其の鎮滅期が餘り長く、有史時代では未だ一回だも活動の現象を呈さぬ火山である、されば其噴出口の如きも、今は殆んど閉塞し往々水を湛へて火口湖又は火口原湖を成してゐる、榛名山は榛名湖があつて特異の光景を發揮し多くの遊覽者を引き付けてゐる。

【火口湖と沼尾川】 火口湖及火口原湖に、集つた水が、火山體の中心から輻射状を生じて居る、裂隙に沿ふて舊噴火壁即ち外輪山を破つて、流出する溪流の出口を火口湖といふ又火口湖は火口壁を横断するものであるから其兩岸の斷崖絶壁をなす所には、各種の噴火物の累積が露出してゐる榛名山の沼尾川は即ち此火口湖をなしてゐる。

【伊香保の温泉】 温泉といふのは、通例攝氏の寒暖計で約二十五度以上の温度を有するもので、世界第一の鑛泉國である我國は殆んど一千三百に近い鑛泉を有して居るが其大部分を占むるものは温泉に、東國では箱根、修善寺、熱海、伊香保、草津、塩原、那須等が最も史上に名高い。

【湯の花と鐵華】 温泉から噴出する瓦斯の種類には、硫化水素、亞硫酸、酸化硫黄其他のものがあるから、其四邊には自然硫黄、硫化砒素、硫化安母尼亞、其他の沈澱物は地中の深所にあつては温泉の水が地熱及其他の熱のために熱せられて多くの鑛物質を溶解含有してゐるが、地面に流れて出る時には、遽に壓力を減じて温度が降るから、之が溶解含有して居る諸種の物質は、温泉附近に沈澱堆積するのである、是等を總稱して湯の花と呼ぶので、温泉場では何處でも多少湯の花のない處はない、伊香保の湯の花は京濱地方の需要が中々多い。

上述の沈澱物で酸化鐵の沈澱物は、大概赤褐色を呈し之を鐵華といふ、伊香保温泉のが夫れである。

【伊香保の鑛泉】 一體鑛泉と云ふのは鑛物質の溶解含有する量が百分の一以上でなければ

ばならぬ、而して我國は世界第一の温泉國でまづ、炭酸泉としては別府の不老泉、鹽類泉としては熱海、酸性硫黄泉としては草津、酸性泉としては箱根の小涌谷、アルカリ泉としては道後が有名である、而して伊香保は鹽類性鐵泉としての代表者である。

以上の如く伊香保は鹽類性鐵泉に屬するを以て特に、貧血諸病、消化器病、生殖器病等には著しき効驗がある。

### 兒童と伊香保

醫學博士 三島 通 良

私は茲に伊香保が轉地療養地として、如何なる兒童に適するかといふことを一寸申してみやうと思ふ。

伊香保に轉地させるに最も適應した者は貧血の兒童であります、それから營養不良の兒童、神經過敏の兒童には宜しい、病後の兒童は其種類によつて必ずよろしい。

それで、伊香保で行ひ得らるゝ理科療法は夏期に涼しいから氣候療法、高山で空氣が清良だから空氣療法、含鐵鑛泉を用ひて鑛泉療法が出来る、又近來は又飲食物の供給も可なり届て來たから兒童の食餌療法も出來やうと思ふ、只温泉療法を行ふに目下まだ公設タンク

の設備がないやうだから温泉の温度は適宜に加減することが出来ない、それ故當分は浴場毎に湯溜を作つて、冷した温泉を取つて置いて、兒童のために湯の注入口を留め、之に冷鐵泉を注して温度を加減してやつたらよろしからう、温度の加減は兒童毎に異なるから云へぬが入浴の度数は初め少なくとも、兩三日間は一日一回其以後でも二回を極度とします、湯の中にある時間は五分を超ひぬやうにせねばならぬ兒童に鑛泉を飲ませる即ち飲水療法を行ふ事は、アーセぬ方が危険がないでせう。

食物は穀物の外に多量の牛乳鳥肉牛肉及び柔い野菜を用ひ、生の果實は年長の兒童の外用ひぬがよい、年少の兒童には砂糖煮にしたものを少量に與へればよい、飲物は清良の水、麥湯、薄き番茶位で、氷水、茶、コーヒー、シヨコート等は與へぬに如くはなし、アイスクリームも出来るだけ控へさせたがよい、菓子は飴物砂糖のみを以て製した物、脂肪こきものは與へてはならぬ。

### 伊香保附近の動物と植物

理學博士 飯塚 啓

【動物】 キツ、キ、アカゲラ、嘴にて樹幹を敲き、面白く樹幹を直攀する、附近の山林

に多く棲息して居る。

ルリ、セキレイ 湯元附近に多い。

ホト、ギス、慈悲心鳥、杜鵑は血に啼き、慈悲心鳥は腹臍にしみよと鳴く。

キジ、ヤマドリ、カモ、オシドリ、リス、ムサ、ビ、ウサギ、キツネ、シカ、サル、

河鹿、蝶蛾其他昆蟲も多い。

【植物】 もうせんごけ、肉食 植物として有名なるもうせんごけは榛名富士の西麓に産出する。

天神草、白花を開きて清楚愛すべき天神草は地藏河原附近に産す。

岩千鳥、小さい紫色の美しい花を有する岩千鳥は物聞山石尊附近の断崖に散見する。

川のり、船尾瀧の下流に産す、

鮮苔類、相馬山の北裏辨天瀧の邊りに多く産する。

### 名物里程其他

【名物】 湯花(最も産出が多くつて浴用として効果が尠ない、湯歸りの土産には妙であ

る) 湯花染(湯花を以て染め上げた此處の特産品である、前掛、手拭等が出来て居る)、

鑛泉化石細工品(温泉が或る物に固着して化石となつた物を、鑛泉化石と云ふ、これは此

化石を細工した物である、硯、印材、珠、床置物等が出来てゐる) 轆轤細工品(附近の山

中に生ずる櫛、山柘、槐、桑、黒柿、栗等の木を細工した物で菓子器、火鉢、手遊品等が

出来て居る) あけび蔓細工品、(頗る美術的の物である 提籃、菓子器其他の物がある)。

鑛泉飴、鑛泉を交へて拵へた物で、腐敗の杞れ無く、貧血病、肺病、子宮病等の人に効能

がある) 鑛泉煎餅、山千鳥、栗羊羹、干やんまい、香山椒、(此五品は何れも滋養と風味と

を兼ね備へた物である) 伊香保筆(萩の軸で出来て居る) 髪洗粉、氷豆腐、蕨、落等は此地

の名物として名高い。

【名所への里程】 ●物聞橋より水澤観音まで一里二丁四十五間 ●同橋より船尾瀧まで一

里二十八丁二十五間 ●伊香保神社より見晴しまで十丁 ●同神社より琴平神社まで八丁四十

間 ●同神社より見晴し二ツ嶽を経て『ガラメキ』温泉まで一里二十四丁五十間 ●薬師堂より

岩崎橋まで四丁二十間 ●岩崎橋より鷺の巢茶屋まで十二丁三間 ●鷺の巢茶店より『ヤセヌ

ネ』茶店まで十四丁四十間 ●『ヤセヌネ』茶店より天神峠まで一里一丁十五間 ●天神峠より

榛名神社まで十八丁●薬師堂より榛名神社まで二里十四丁十八間●鷺の巢茶店より二ツ嶽  
 蒸湯まで八丁四十間●關屋より七重の瀧まで五丁三十間●關屋より辨天の瀧まで二十五丁  
 十間●辨天の瀧より湖畔亭まで一里十九丁三十間●辨天の瀧廻り榛名神社まで二里二十六  
 丁四十間●關屋より湯中子まで十一丁四十間●湯中子より大瀧まで五丁●大瀧より辨天の  
 瀧まで十六丁五十間●關屋より大瀧辨天の瀧分れ道まで十八丁十間●物聞橋より琴平神社  
 まで五丁二十間●琴平神社より見晴しまで四丁二十間○

【伊香保温泉旅館】(氏名イロハ順)

鑛築館	石坂惠十郎	市川館	市川林造	新井屋	一倉安太郎
橋屋	馬場友七	河内屋	羽鳥善吉	松葉館	萩原重朔
丸本館	萩原龜太郎	油屋	庭山岩吉	仁泉亭	千明三右衛門
叶屋	大塚政五郎	吉田屋	金井忠作	金田屋	金田辰造
横手館	横手信太郎	香月館	高木ヌイ	香雲館	塚越七平
香山樓	村松秀茂	山城屋	眞淵熊藏	福一旅館	福田與重
福田屋	福田芳太郎	蓬萊館	木暮金太夫	木暮館	木暮武太夫
千登世館		齋田屋	齋藤谷藏	八百屋	齋藤卯之助

藤の屋 齋藤仙助 木村屋 木村利平 浴蘭樓 岸 權三郎  
 柏屋 茂木左衛門 森田館 森田秋三郎

伊 香 保 案 内 (終り)

大正十三年七月廿五日印刷  
 大正十三年七月三十日發行

定價金十五錢

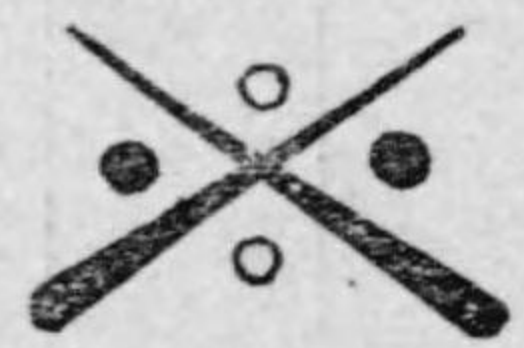
不許復製  
 所有權作者

著 東京府北豊島郡日暮里日暮里千四十番地  
 行 兼 戸 丸 國 三 郎  
 人 兼 田 中 印 刷 所 正

印 東京府北豊島郡日暮里町谷中木二一四番地  
 刷 田 中 印 刷 所 正  
 所 人 田 中 印 刷 所 正

發 行 所 會 社 資 本 日 本 温 泉 協 會 代 理 部

高等



遊  
戲

群馬縣草津溫泉

草津球戲場

(三台の新式球突臺完備)



花柳病、外科

X光線科

上州草津温泉

石田療病院

(舊稱) 草津療養院

▼入院の需めに應じます

▼御照會は郵券封入、施療いたします

効能と特徴

胃腸病

婦人病

神経痛

効能實に日本一

(子供の出来るお湯)

滞在費は皆様の御予算に従ひ如何様にも致します。自炊設備もあります

閑靜なる別館並に新築落成いたしました

親切第一



旅館 イソベカン

櫻井秀男

上州磯部温泉

當温泉の効能偉大なるは醫學上有名な例のカルシウムが多量に含有する故にして浴槽に岩の如く附着して居るを見ても顔かれます又入浴後(湯さめ)のしないのは他温泉の約五倍程多量に瓦斯(氣體)を放散する爲めです……御一報次第美しくい案内書を贈呈いたします  
(信越線磯部驛より二町高崎驛より二十分余)

# 赤城山 梨木温泉

▼風光明媚▲

(空氣) 梨木礦泉ハ赤城山の南麓ニ位シテ海拔一千四百尺ノ高所ニアリ前ハ深澤川ノ溪流ニ接シ空氣極メテ清涼ナリ  
 (眺望) 本泉ハ三方山ニ接シテ南方稍開キ桐生吾妻山ニ對シ遠ク渡良瀬川板倉ノ沼等ヲ眺望シ展望頗ル佳絶ナリ  
 (泉質) 本泉ハ内務省衛生試驗所ノ定量分析ニ依レバ食鹽炭酸泉ニ屬シ其毎千分中ニ含有スル固形總量ハ約貳貳五〇六分トス  
 (効能) 本泉ハ最モ内用ニ効アリ胃弱、便秘、浴用ハ慢性粘膜炎、加答兒(婦人生殖器病)癩癧、健麻質斯、呼吸器病等  
 (名所) 黒檜山、地蔵岳、赤城神社、大沼、小沼、瀧澤不動、瀧澤瀑布、湯木櫻、廣野松、遊歩運動ノ勝地トス  
 (道筋) 東京、高崎、前橋方面ヨリ來ル方ハ桐生ニテ乗換ヘ足尾線上神梅停車場ニ下車シ、栃木縣地方ヨリ來ル方モ桐生停車場下車、足尾線ニ乗換ヘ上神梅驛ニ下車、スレバ本泉迄約一里

▼浴効如神▲

上州勢多郡黒保根村梨木礦泉  
**鑛泉旅館**  
 湯本  
**梨木館**

◎弊館は町の中央に位し何れの時間湯へも至極御便利で内湯は温度の高下御自由です  
 ◎貸切湯、寫眞暗室、別館等の設けがあります

上州草津温泉(松の場前)

内湯 旅館 **大東館**

館主 山本與平次  
 電話草津十八番

◎信越線輕井澤驛より草津電氣鐵道の便あり、終點孀戀驛より三里餘、自動車一時間にて御到着いたします  
 ◎御一報次第、案内記御贈り申します

● 弊館は座しながら白絲瀧、ガマケ淵を望み、四望豊かにして風光は當地第一に御座候

● 弊館は別館、支店及び離座敷あり、決して混雜の憂ひ無之は勿論、御手輕に親切誠意を旨として御居心よろしき様、親族的御待遇を心掛け居り候

● 東海道線三島驛より約一時間にて御到着相叶ひ候、詳細は御一報次第案内書御贈呈申上候間就て御承知被下度候

● 前年、大川旅館の營業權全部を譲受け弊館の西館として理想的設備を加へ營業致し居り候間併せて御愛寵有之度奉願上候

伊豆國修善寺温泉

# 温泉旅館 野田屋

疑雨來館ギウライカン

電話 八番

● 本館は温泉場の中央に位し、各時間湯へ便利にして本館の内湯は温度の高下自由に御座候  
● 當地へは婦懸迄輕井澤驛より輕便鐵道、更に自動車の連絡ありて非常の便宜を加へ候

上州草津温泉

# 日新館 湯本柳三郎

(本館には貸切浴室十數箇あり)

電話 十三番

● 當温泉の狀況通路等御不案内の方へは御一報次第(温泉案内記)を迅速に無代贈呈可致候

● 東京方面及び信越方面共輕井澤午後一時着迄は日着容易に御座候

278  
148

# 全館三層樓 新築落成

● 弊館は海岸に突出せる高所に在りて眺望絶佳なり  
● 客館は凡て新築にして器物寝具等共に衛生的なり

伊豆熱海温泉

内湯旅館 清快樓 古屋

内田市郎左衛門

電話 二百十六番  
電話 二百十六番  
電話 二百十六番

● 弊館には内湯むし風呂玉突場圖書室演藝場等あり  
● 客室は空氣の流通よろしく各室洗面所の設けあり

288  
148

# 全館三層樓 新築落成

●弊館は海岸に突出せる高所に在りて眺望絶佳なり  
●客館は凡て新築にして器物寝具等共に衛生的なり

伊豆熱海温泉

内湯旅館 清快樓 古屋

内田市郎左衛門

電話 二百十六番  
電話 二百十六番  
電話 二百十六番

●弊館には内湯むし風呂玉突場圖書室演藝場等あり  
●客室は空氣の流通よろしく各室洗面所の設けあり

270  
148

# 全館三層樓 新築落成

●弊館は海岸に突出せる高所に在りて眺望絶佳なり  
●客館は凡て新築にして器物寝具等共に衛生的なり

伊豆熱海温泉

内湯旅館 清快樓 古屋

内田市郎左衛門

電話 二百十六番  
電話 二百十六番  
電話 二百十六番

●弊館には内湯むし風呂玉突場圖書室演藝場等あり  
●客室は空氣の流通よろしく各室洗面所の設けあり

御料理

上州伊香保温泉

蒲焼

酔月樓

仕出し

電話十一番

宴會には新館に廣間有之候間如何程  
多人數様にても御差支無之候

終